

Economic Monitor

所 長 三輪裕範 03-3497-3675 miwa-y@itochu.co.jp
主任研究員 丸山義正 03-3497-6284 maruyama-yo@itochu.co.jp

6月は大幅減産も、7～9月期に鉱工業生産の増勢は加速へ

6月の鉱工業生産は前月比▲3.3%と大幅減少。自動車関連や半導体など、ほとんどの業種が減産に陥った。4～6月期で見ても前期比1.4%と増勢は弱い。但し、7月に大幅増産が見込まれており、実現率のマイナスなどを勘案しても、7～9月期は前期比2%台半ばへの増勢加速が期待できる。

6月生産は予想外の大幅減少、4～6月期も増勢は弱め

経済産業省によると6月の鉱工業生産は前月比▲3.3%（5月1.9%）と大幅に減少した。減少は5ヶ月ぶりである。減少自体は生産予測（▲2.4%）と市場予想（▲1.5%）とともに想定していたが、減少幅は予想を大きく上回り、ネガティブ・サプライズである。2013年に入ってから生産回復を主導してきた自動車関連（輸送機械工業▲4.1%、鉄鋼業▲3.8%、化学工業▲2.7%）をはじめとして、ほとんどの業種が減産を記録した。6月大幅減産の結果、4～6月期の生産増加幅は前期比1.4%にとどまり、1～3月期0.6%から僅かな加速にとどまった。2四半期連続の増産ではあるが、未だ増勢は弱い。

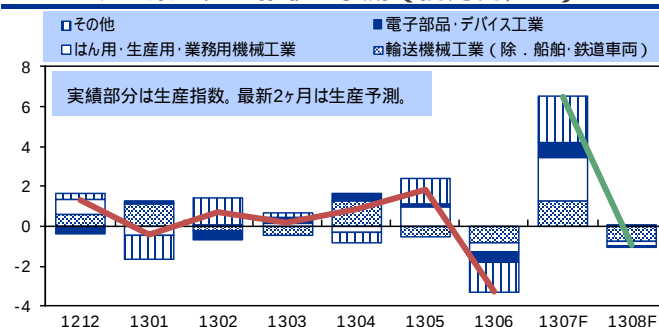
7～9月期は前期比2%半ばの増産に

但し、生産予測を見ると、7月に前月比6.5%と大幅増加が見込まれている。8月は前月比▲0.9%と小幅減少だが、9月を前月比横ばいと仮定した場合、7～9月期は生産予測ベースで前期比3.4%（4～6月期1.4%）、鉱工業生産に単純接続した場合には前期比4.2%（4～6月期1.4%）といずれも大幅な増加を示す。実現率の大幅マイナス（5月▲1.4%、6月▲1.4%）が続いている点は割り引く必要があり、また生産予測と生産指数の乖離¹が目立つ「はん用・生産用・業務用機械工業」と「電子部品・デバイス工業」が7月に大幅増産を見込んでいる点も勘案する必要がある。ただ、そうした点を考慮しても、7月に前月比4～5%程度、7～9月期では前期比2%台半ばの増産は視野に十分入っている。

内外需の拡大や在庫循環に支えられ増産基調

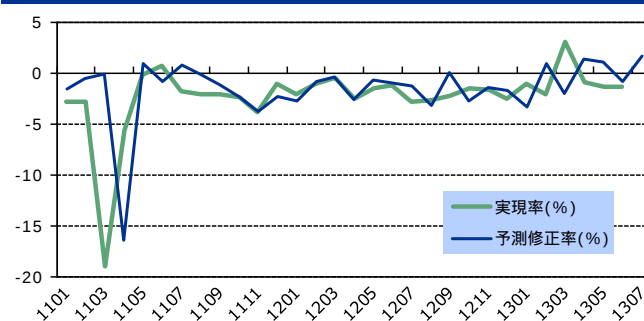
今後について考えると、欧州や新興国など海外需要の動向に注意は必要だが、当面は円安が輸出を数量面で

鉱工業生産の推移と予測（前月比、%）



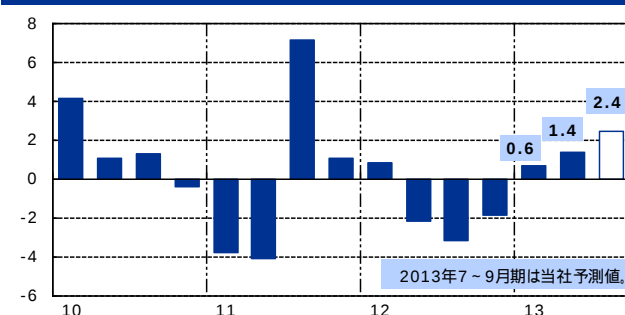
(出所)経済産業省

実現率と予測修正率（%）



(出所)経済産業省

鉱工業生産の推移と予測（前期比、%）



(出所)経済産業省

¹ ちなみに7月の生産予測は、はん用・生産用・業務用機械工業が前月比11.6%で寄与度2.2%Pt、電子部品・デバイス工業は前月比8.2%、寄与度0.8%Ptである。

下支えする効果が見込まれ、また昨年度補正予算の執行進捗や消費税率引き上げ前の駆け込み需要などにより内需も堅調推移が期待できる。つまり、需要面から生産拡大が促される状況が続く。加えて、在庫率の低下²が示すように、在庫循環という自律的な観点も鉱工業生産の拡大を後押しする。以上を踏まえ、鉱工業生産の拡大は2013年度を通じて継続すると予想する。

6月の減産には自動車部品や半導体関連が寄与

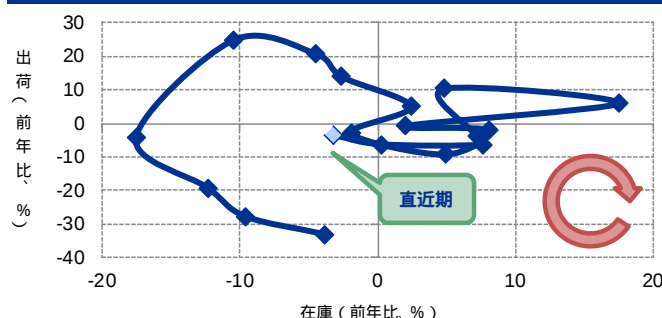
業種別動向を見ると、既に述べたように6月は15業種中13業種が減産とほとんどの業種が減産に陥った。情報通信機械工業のみが前月比3.5%と増産、金属製品工業は横ばいだった。

減産業種で、特に押し下げ寄与が目立ったのは輸送機械工業と電子部品・デバイス工業である。輸送機械工業の生産は自動車部品を中心に前月比▲4.1%（5月▲3.7%）と減少し、生産全体を0.8%Pt押し下げた。また、電子部品・デバイス工業は電子部品や集積回路が低調で、▲6.7%（5月2.1%）と減産、生産全体を0.5%Pt押し下げている。また、はん用・生産用・業務用機械工業（同▲3.2%）の減産幅も大きなものだった。

7～9月期には多くの業種が増産を見込む

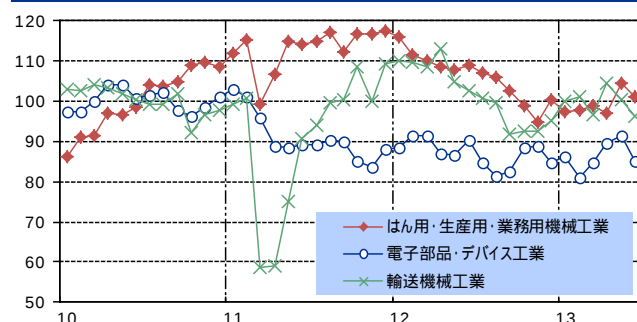
但し、4～6月期で見ると、風景は異なる。1～3月期に前期比6.3%の大幅増産を示した輸送機械工業こそ1.0%へ減速したが、電子部品・デバイス工業（1～3月期▲3.8%、4～6月期5.4%）やはん用・生産用・業務用機械工業（1～3月期▲0.1%、4～6月期2.9%）は増産に転じている。また、7月以降はほとんどの業種が増産を見込んでおり（7月で見ると生産予測対象11業種中9業種が増産見通し）、7～9月期に生産回復の加速が期待される。

在庫循環図：鉱工業



(出所) 経済産業省

主要セクターの生産推移（2010年=100）



(出所) 経済産業省

² 6月の在庫率は前月比5.8%と上昇したが、四半期平均で見ると1～3月期前期比▲4.8%、4～6月期▲4.0%と2四半期連続で大幅に低下している。